

保育おおさか

平成18年8月1日 第372号

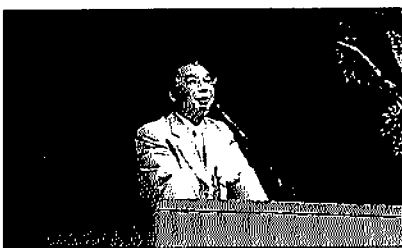
大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

次世代育成支援をテーマに

和歌山市で近畿ブロック研究集会

平成18年度近畿ブロック保育研究集会が7月13日から14日の2日間、和歌山市の「和歌山県民文化会館」と「アバローム紀の国」で開催された。

研究集会には、近畿一円から750人余りの参加を得て、「地域に広げる子育て支援―保育所がすすめる次世代育成支援」をテーマに、2日間の日程が進められた。



近畿ブロック保育協議会
伊藤義明会長

題したビデオが上映された。見ている者の心が洗われ、和歌山の素晴らしい歴史を感じることが出来た素晴らしい。

その後、平成18年度近畿ブロック保育研究集会実行委員会の井上光子委員長からの開会宣言で幕をあげ、主催者を代表して近畿ブロック保育協議会の伊藤義明会長が挨拶され、開催地歓迎の意を込めて、和歌山県保育所連合会の森田昌伸会長が挨拶された。

来賓祝辞では、小佐田昌計和歌山県副知事をはじめ、谷洋一和歌山県議会副議長、全国保育協議会の松川和照副会長、全国保育士会の安藤、(分科会は二面へ)

藤千恵子副会長から心強い祝辞が述べられ、開会式は終了した。

1日目は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局企画官(保育・母子保健担当)の八神敦雄氏より「行政報告」と題して、講義がおこなわれた。

今回は、特に「認定こども園」について、制度化の背景、機能から類型と財政措置、利用手続きと利用料についての説明がされ、さらに、①職員配置について、②職員資格について、③施設設備について、④教育及び保育の内容について、⑤保育者の資質向上などについて、⑥子育て支援について、⑦管理運営支援について、わかりやすく説明された。



収穫を期待する中で青虫の発見に目を輝かせ、水やりもそこそこ捕まえるのに必死、飼育ケースに入れられ、狭い住居に迷惑なのは青虫くん、それでも少しの葉っぱを食料に10日でモンシロチョウに...

今度はバセリを住居にしている、大きな青虫も被害に遇いました。1週間が経ち、10日程今度はアゲハチョウに...

記念講演

「だれが未来を奪うのか」 ―野田聖子衆議院議員がエール―



野田聖子衆議院議員

2日目は、衆議院議員で環境委員会委員・聖徳大学名誉学長である野田聖子氏による記念講演がおこなわれた。

「だれが未来を奪うのか―少子化と戦う」と題しておこなわれた。

まず少子化の現状を踏まえた上で、高齢化は、目にはつきりと見え自覚することが出来るが、少子化は、

子どもが実際に生まれないことには、目に見えず自覚することも出来ない。しかし、将来国家をささえていく人がいなくなってしまうことは、危機的な状況であり、特に日本の場合、自然資源が、「温泉」ぐらいたくなく、人の労働力の重要性は極めて高く、政策ではなく国策として対応しなければならぬのに、現状は

あまり出来ていないとして、(1)社会構造改革、(2)財政支援、(3)教育の3点について鋭い角度から支援が必要だと熱く話され「子どもと母親の味方である先生方、誇りを持ってがんばって下さい」とエールを送られ講演を締めくくられた。

最後に次期開催地である大阪市保育所連合会の田中ゆき江氏によるアビールと挨拶のあと、平成18年度近畿ブロック保育所研究集会実行委員会の芝本義副実行委員長が閉会の挨拶をされ、全日程を終了した。

そして、モンシロチョウもアゲハチョウも大空へ飛んでいきました。

幼虫からさなぎへ、そして成虫まで時間をかけての変化を楽しんだ子どもたちでした。

身近に動物の動きと、より自然な姿を見ることが出来る注目の旭山動物園。

美術館への入館離れを止める様々な工夫を備えた美術館もブームとか...

この夏、身近なところからたくさんさんの体験をさせてあげたいですね。子どもたちに。

7月13日、14日に渡り、和歌山市に於いて夏の猛暑を
思わせる中、750余人の参加者で開催されました。

第4分科会 職員の仕事と園の経営

長時間保育、保育サービ
スの多様化により、職員の
勤務体制も複雑になり、人
材育成法について関心が高
まる中、限られた人的・経
済的環境のもとで、必要な
情報を全体に伝え共有化す
ることや、全職員が参加で
きる機会を設けることに工
夫した取組みを紹介された。

まず泉佐野保育士会では、
全員が同じ研修を受講でき
るよう、平日の夕方以降の
2日間に渡り行うようにし
ている。また研修終了後は、
全員がレポートを園長へ提
出し、後日主任保育士会に
て報告、検討が行われ、今
後の研修に活かしている。

今年度は、企業の人材開発
のノウハウを導入し、社会
人としてのステップアップ
を目指し、通年予定のマナー、
接遇講座を実施している。

また全員が参加できない
園外研修も、園内で必ず報
告会を設けているので、研
修参加者が責任感を持って
発表に臨み、全職員の情報
の共有化や地域、最新の保



発題者 田中正清さん

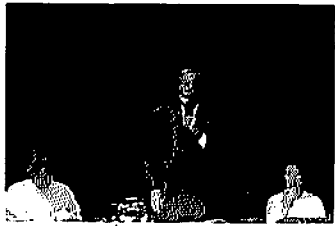
育を行っているか見たいと
いう意見が多かったとのこ
とであり、現在はまだ実現
には至っていないが、同じ
ように改善に取組む保育園
間で、職員交換研修ができ

興味深いのは、他園との
職員交換研修案である。今
回の研修にあたり職場アン
ケートを行った際、自分
達が日々行っている保育
を振り返るという意味で
も、他園がどのような保

育施策への関心を高めるこ
とにもつながっている。若
手職員も、研修内容を記録
し、まとめ、口頭で伝達す
るという力量が問われてく
る為、日々自己研鑽が必要
となってくる。

れば、各園の保育を見直す
きっかけにもなり、同年齢
クラスの担任同士などで行
えば研修中のマンパワー不
足も補いあえるのではとの
報告であった。

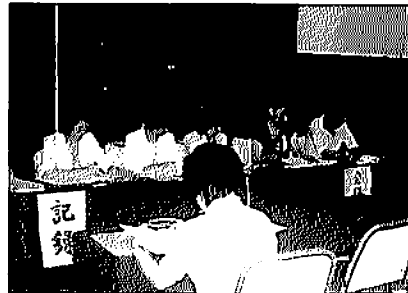
質疑応答では、職員の人
格性と保育力量の不一致を
懸念しているという意見や、
各園が願って利用者ニーズ
に迎合するような風潮の中、
今本来の保育とは何かと問
い直す時期に来ているので
はとの意見があった。



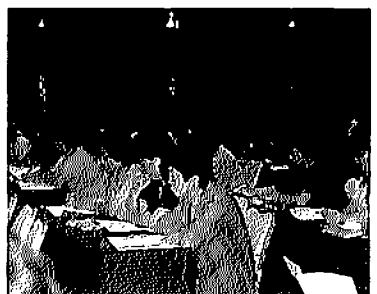
最後に助言者は、専門職
の成長を考える一つの手掛
かりに芸能論書「風姿花
伝」を紹介され、経営理
念を考える上で出発点で
あり、うわべだけの顧客
満足度の向上を目指すので
はなく、専門職としてブラ
イドを掛けて「やはりこの
園でない」と地域で認め
られるようアピールすべき
であると述べられた。

第7分科会 家庭を支える 保育所となるために

第7分科会「3歳以上児
(異年齢保育)の現状と保
育・子育て支援のあり方」
として、北摂の旭ヶ丘学
園三浦はるみ先生の研究
発表がありました。



発題者 三浦はるみさん



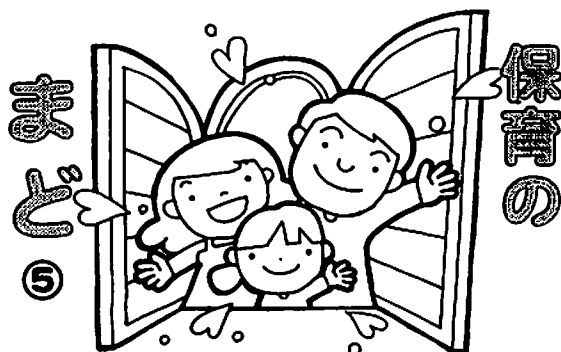
保育で明確に受けとめ実
践にとり入れた保育展開
がされていることを、社
会的認知がされていない
のではと思われる点があ
り残念に思います。

今回のテーマは3歳以上
児の保育内容を実践として、
家庭・地域社会と密接な連携
を図りながら現存するニー
ズに対応していくのが、当
年の役割と考える。今年度
後半期より「認定こども園」
が制度化され、幼保の壁が
とり除かれようとするなど、
多くの課題をはらむ中、平
成12年に保育所保育指針が
改定され、3歳以上の保育
にあつては、幼稚園教育要
領との整合性を強調され策
定されています。中でも、

し、今回のテーマ「養護と
教育の一体化に見られる就
学前教育を考える」という
内容で発表されました。

新しい経験・年齢による
ステップアップした活動を
しっかりカリキュラムに組
み入れ、養護と教育の一体
化をめざす保育のあり方が
大切で、そのためには各々
が片寄った活動にならない
ために、一つの活動に他か
ら専門の特別プログラム指
導者を設けるのではなく、
保育士自身の研鑽が要求さ
れています。保育者、地域、
保護者、地域子育て支援を
機に安心感を与え信頼を得
られる活動の展開が不可欠
と考えます。

助言者 里見恵子助教授
(大阪府立大学)
異年齢保育は何を育てる
ことが期待されているのか、
3歳以上の保育は何を期待
されているのか。人と関わ
り、いつくしみ、世話、ケ
ンカの時の思いやり、感情
や自発性など、自由な遊び
の中だけでは身に付けられ
ない、集中力は自由遊びの
中だけで育つのか？保育の
中で教育的課題は何かを考
えてみる時代が来たと思う
との助言がありました。



「自己肯定感と他人への思いやり」あさか保育園



薙刀術伝承

当園と薙刀の由縁は、園長が幼少期に直心影流薙刀術、故第十七代宗家戸谷明子氏に養育されたことからはじまります。直心影流は、室町時代より続く由来ある術で、現在は宗家の後を伝承して各地で活躍されている中村節子師範のもとで当園児4・5歳児対策に週一回の指導と、夕方よりOB小学生対象に薙刀教室を行っ

ております。小学生においては、来る11月11日には、千葉で開催される直心影流薙刀術秀徳会創立四十周年第五十回記念事業の演武大会に出場が決まっております。直心影流は、いわば日本の無形財産でありながら、伝承が危ぶまれています。しかし、鉄砲伝来以前は、主な戦術であり、日本人の精神と深く結びついていると思われまふ。(女児のみの技と思われるのは江戸期になってからのこと)しかも、左右双方の「水車」

「風車」などの古流形があり、難しいものですが、園児との相乗効果の中、真剣勝負で稽古に励んでいます。当園5歳児の薙刀の稽古では、風呂敷に胴着、袴をたたんでいれており、道場で着替えてからはじまります。現在蝶結び、袴のしくみを覚えて、ひとりでは着ることができるよう四苦八苦しながら集中しています。又、稽古の前には床の雑巾がけがありますが、けつしてさせられているのではなく、胴着を着ることによ

り、「やる気」が沸き上がり、技・打ち方を取っていきうちに真剣な眼の輝きが見られてくるのです。自分もやれるんだという達成感から自己肯定感が育っていきます。そこから人として一番大切な「人への思いやり」が育ち、他人との協調の輪が広がり、人間形成と、豊かな心の育ちが生まれます。保護者、地域を巻き込み、伝承文化の継承と地域支援事業の一環としてこれからも取り組んでいきます。



太田大阪府知事と



ブースにて

6月24日、内閣府と大阪府主催の「第1回食育推進全国大会」が大阪市のアジア太平洋トレードセンターで開催されました。大会は、本年3月に制定された食育推進基本計画で6月が食育月間と定められ、その一環として開かれ、その趣旨は、「21世紀における我が国の発展のためには、全ての国民、特に子どもたちが豊かな心と健やかな体をはぐくむこと」が重要である。ということで、食育を知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けること。様々な経験を通じて食に関する知識と食を

選択する力を習得し、健全な食生活を実践することが出来る人間を育てる食育を推進すること。が求められる。大会では、国や地方公共団体、保育、教育、保健医療、農林漁業、食品産業の関係団体など様々な関係者が102団体・87ブース出展し、食育に対してそれぞれが趣向を凝らして訴えかけた。第一回であったが、当日1万人を超える来場者

で、活気にあふれていた。主な柱は、次の4点である。①保育園での食育実践例を載せたリーフレットを作った。②四季折々のクッキング

特にリーフレットは、自慢の出来あがり、特筆すべきは枚方市全園に協力呼びかけ実践例を集めた。「食を営む力」を育て培ってきた重みのある内容となつたと自負している。

6月24日
第1回
食育推進
全国大会

当日は、赤松正雄厚労省副大臣・太田房江知事・北川法夫大阪府議会議員・永野治夫保育部会長・土井加津人日保協大阪支部長をはじめ多くの方々に激励のためブースに来ていただき、8月1日サンTVで朝8時から放映

ブロックだより

「泉州ブロック」保育士研修会 —保育と家庭の移り変わり—



泉州民間保育協議会
会保育士会の研修会
が、6月24日(土)、
貝塚市産業文化会館

でおこなわれました。
今回の研修は、大阪大谷
大学教育福祉学部助教授、
桜井智恵子氏に「子どもと
保育と家庭の移り変わり」
について講演をしていただ
きました。

戦後、学力ばかりに気を
取られ、学力主義、学歴主
義で育てられた子どもが親
になり、子どもの泣き声を
聞きつけてくれていた近所
の人は、今では通報に変わっ
て地域のつながりも薄くなっ

てきている。
今の子ともより親に目先
ではなく奥深いカウンセリ
ングを望みたい。
これからの保育所運営の
ために、

○保育所の質を落とさない

(保育士の質を高め、子
どもの素材を生かし育て
る)
○家庭を育てる(気になる
家庭は、担任、主任、園
長などチームで育てる)
○地域を育てる(障害児保
育の充実)

桜井先生が、保育士さん
は、子どものすることを何
でも「すごい」とはめて認
める。あなた方はエライ!
貴重な存在です!と云って
下さった言葉にこれからの
保育にも自信をもつことが
できる研修でした。

(南海愛児園 R・M)

保育園をたずねて

342

大東市

第2 聖心保育園



プール大スキ♥

開きにむけて、年
長の子ともたちが
プールとおもちや
の掃除をしている
ところでした。

「自分達がこれか
ら使うものを綺麗
にしよう」、「小さ
いお友達が気持ち
よく使えるように
しよう」という想
いを持って、久し
ぶりの水遊びを楽
しんでいました。

子ども大運動会

—南大阪ブロック—



南大阪ブロックでは、6
月27日に羽曳野コロセアム
において、年長児対象に大
運動会をおこないました。
21ヶ園、542名の子とも
たちが参加し、楽しい時間
を過ごしました。

特に盛り上がったのは、
恒例となっている園対抗リ
レーです。子どもたちは勿
論のこと、保育士、観覧に
来ていた保護者までもが、
大きな声で自園を応援する
姿が見られました。他には
障害物競走、玉入れ、綱引
きをおこない、みんな一生



車から大きな輪になり、み
んなでフォークダンスを楽
しみ、良い思い出作りが出
来ました。日頃、他園のお

鳥大阪府社会福祉協議会
施設福祉部職員で、保育
部会担当の清川美佳子さ
ん(旧姓木越)が産休に
入った。出産予定は8月
下旬とのこと
だが、母子と
もに健康で元
気な赤ちゃん
の誕生をお祈
りしたい。

また、保育部会調査研究
委員会の担当の一人として
活躍してくれていた、明善
保育園(枚方市)の亀井信
順さんも研修期間を終えた
この6月30日を
もって、保育園
に戻った。保育
部会々員も46
0か園を超え、
これにかかる事
務量も相当なものになっ
ていると思うが、先輩の稲垣
朱実さんを中心に効率よく、
正確な事務処理に励んでい
ただくよう期待している。

友達と交流する機会が少な
いので良い経験になったこ
とと思います。これからも、
子どもたちには多くの経験
を通じ、心身共に健やかに
成長していつてもらいたい
ものです。

最後になりましたが、日々、
保育が忙しい中、運動会の
ために、計画、準備をして
下さった各園の先生方、有
り難うございました。

発行所
大阪市中央区中津1丁目11-54
大阪府社会福祉協議会
保育部会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 勝
編集人 永 水